

# 2023

# 校内研究全体計画

《目次》

1. これまでの研究
2. 今年度の研究
  - (1) 研究主題と副題
  - (2) 研究仮説
  - (3) 研究の方法
  - (4) 各学年の目指す児童像
  - (5) 研究成果の調査方法
  - (6) 年間計画
3. 研究組織及び運営

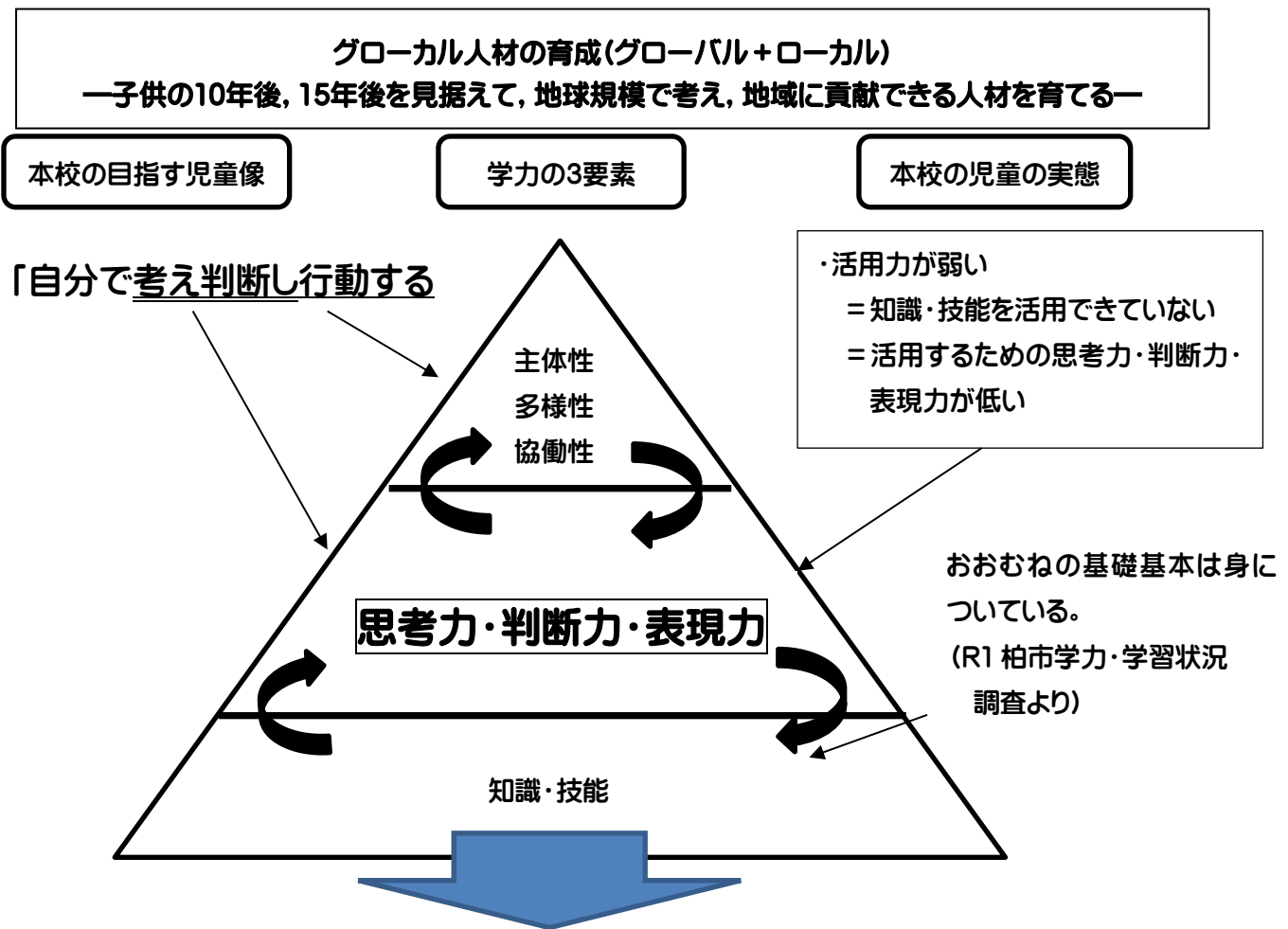


柏市立柏第四小学校

# 1. これまでの研究

## (1) 主題設定の理由

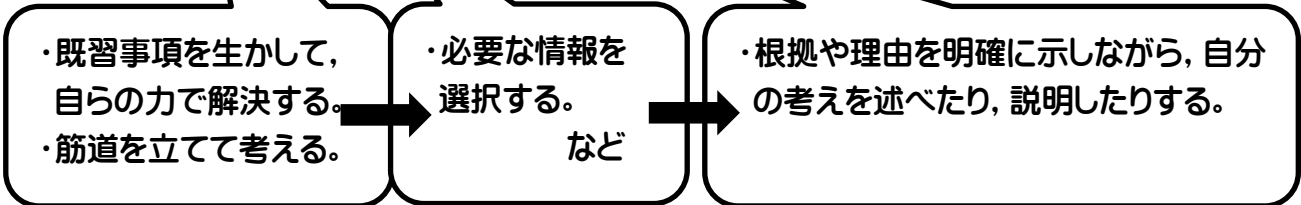
柏第四小学校 学校教育目標



研究主題

# 思考力・判断力・表現力を育成する指導法の工夫

## (2) 教科設定の理由



算数科学習指導要領第2章第2節より

「算数科の目標の中核には, 筋道を立てて考える力の育成を目指すことがある。」

「算数科の学習では, 言葉による表現とともに, 図, 数, 式, 表, グラフといった数学的な表現の方法を用いることに特質がある。このような多様な表現を問題解決に生かしたり, 思考の過程や結果を表現して説明したりすることを学ぶ。」

以上より, 研究主題を達成するために, 「算数科」が適していると言える！！

### (3) 算数科研究1年目(2021年度)

#### 【研究仮説】

算数科を通して、自分の考えを数学的に表現することができれば、思考・判断・表現する楽しさや達成感を味わうことができるだろう。

➡ 多様な表現方法を学ばせることで、表現力は高まるのではないか。

#### 【成果と課題】

- ・多様な表現方法を学ばせることができたが、表現力の向上には繋がらなかった。
- ・問題を自力解決することができず(自分の考えを持つことができず)、比較検討場面で自分の考えを表現することができなかった。

### (4) 算数科研究2年目(2022年度)

#### 【研究仮説】

問題解決の手がかりを効果的に提示すれば、児童に自分の考えを持たせることができ、表現力の向上につなげることができるだろう。

➡ 手がかりを提示し、考えを持たせることができれば、表現力は高まるのではないか。

#### 【成果と課題】

- ・問題解決の手がかりを提示したことで、児童は考えを持つことができ、表現することはできた。
- ・表現力の向上(相手により伝わる表現を身につけること)には繋がっていない。

## 2. 今年度(算数科研究3年目)の研究

### (1) 研究仮説

反応や質問ができる聞き手を育てることで、話し手の表現力は高まるだろう。

#### 柏四小が考える「表現力」とは？

「表現力」とは、思考・判断の過程や結果を、自他に理解できる文章として言語化し、表現する力である。

柏四小では、相手やその反応をみて、説明の仕方を工夫し、より相手に伝わる表現ができることを目指します。

#### 「聞き手を育てる」とは？

話し手が説明したことに対して、理解できたのか反応を返したり、質問をしたりすることができる。

それによって、話し手はどのように説明すればより伝わるのかを考えることができ、表現力が身につく。

(2) 目指す児童像

【話し手】

1年生	2年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図、絵を用いて、自分の考えを表現できる子</li> <li>・他者の考えた図や絵などを見て、相手の考えを予想できる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や図、絵を用いて、自分の考えを表現できる子</li> <li>・他者の考えを聞いて、多様な考え方を知ることができ子</li> </ul>
3年生	4年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を生かして、図や式、言葉などで表現できる子</li> <li>・他者の考えを聞いて、多様な考え方を知り、自分の考えに生かすことができる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を生かして、図や式、言葉などで表現できる子</li> <li>・他者の考えを積極的に聞いて、多様な考え方を知り、自分の考えに生かすことができる子</li> </ul>
5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現する上で必要な図や式を自分で選択し、既習事項を生かして、簡潔に相手に伝わるように表現できる子</li> <li>・他者の考えを聞いて、問題解決のためのよりよい方法を選択したり、共通点を見つけたりできる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現する上で必要な図や式を自分で選択し、既習事項を生かして、簡潔に相手に伝わるように表現できる子</li> <li>・他者の考えを聞いて、問題解決のためのよりよい方法を選択したり、共通点を見つけたりして、一般化できる子</li> </ul>

【聞き手】

1年生	2年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の説明を最後まで聞くことができる。</li> <li>・相手の説明に対して、理解できたかどうかを示すことができる。</li> </ul>	
3年生	4年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の説明に最後まで耳を傾け、正しく聞き取ることができる。</li> <li>・相手の説明に対して、きちんと理解できていることを示したり、わからないところを質問したりすることができる。</li> </ul>	
5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が説明したいことを考えながら最後まで耳を傾け、正しく聞くことができる。</li> <li>・相手の説明に対して、理解できたか反応を返したり、質問したりすることができる。</li> <li>・相手の説明を自分の言葉でも説明することができる。</li> </ul>	

(3) 研究の方法 ※単元や学習内容によって、効果的に変更すること。  
網掛け部分は、今年度の研究仮説に大きく関わる内容。

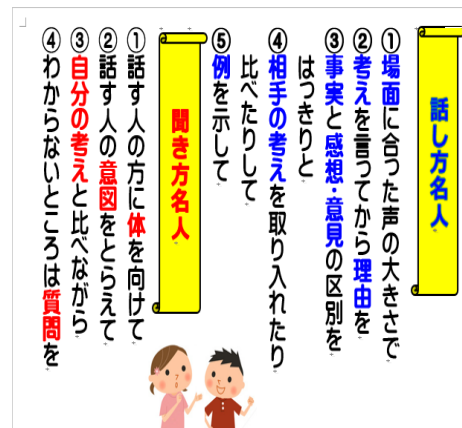
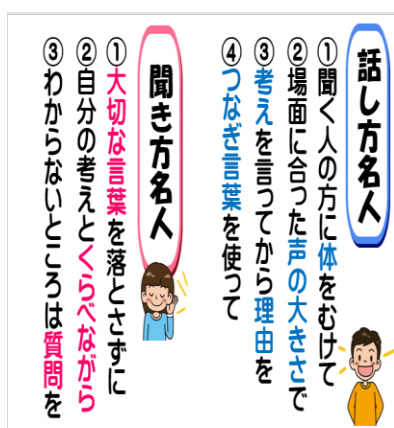
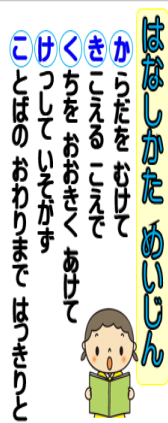
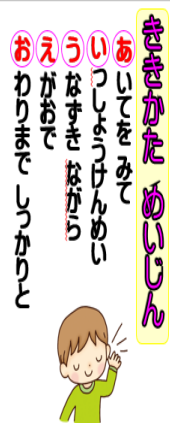
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項と結びつけ、問題解決の手がかりとする。</li> <li>・課題を明確に提示する。</li> </ul>	
自力解決 比較検討	話し手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合わせ、問題解決や相手に自分の考えを説明するために適した方法（具体物や図、式、言葉など）を選び、使わせる。場合によっては、言い出しの言葉を用意し、その言葉を使って自分の思いを表現させる。</li> <li>・児童と共に表現の仕方を考え、表現の幅を広げる。</li> <li>・自力解決や比較検討の手がかりを掲示し、答えを導いたり、自分の考えを説明したりする手がかりにする。</li> <li>・目的や相手意識を持たせて自分の考えを表現させる。</li> </ul>
	聞き手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童から出てきた意見の同じところ・違うところを考えさせる。</li> <li>・意見の聞き方の観点を明確にさせる。</li> <li>・<b>反応や質問の返し方（相づち、理由を聞く、相手の考えを自分も説明する等）を示す。</b></li> <li>・<b>なぜ反応や質問を返すのかを児童に意識させる。（相手の説明力を高めるため。）</b></li> </ul>
	話し手 聞き手 両者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>情報を共有する時間を十分に確保する。</b></li> <li>・考えの多様性に気づき、適切な解決方法を見つける。</li> <li>・自分の考えを発表したり、相手の意見を聞いたりするときのポイントを示す。 （話し方名人、聞き方名人…図1 等）</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用問題を解き、本時の学習を振り返ったり、学習内容の定着を図ったりする。</li> <li>・本時または単元全体を振り返り、学習内容を確認する。</li> <li>・児童に「振り返り」を書かせる。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を振り返りやすいノートづくりをさせる。（図2）</li> <li>・時間配分を工夫する。</li> </ul>	

(図1)

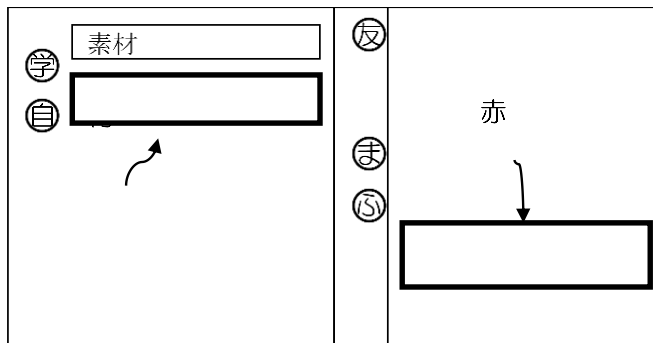
低学年

中学年

高学年



(図2)



※項目の内容や順番は、単元や学習内容によって変更してください。

※学習問題…青 まとめ…赤 で囲みます。

#### (4) 研究成果と課題の調査方法

##### ①日々の授業の様子

**目に見える形のもの**で評価してください。

ノート、ワークシート、発表会形式での発表、作成した作品やレポート等

児童に**振り返り**を書かせることで、表現力の変容を見取りましょう。

→話し手としては、「聞き手が自分の考えを理解できたのか」、

聞き手としては、「話し手の説明に対して、反応や質問を返すことができたか」等  
自己評価をさせましょう。

低学年など、文章を書くことが難しい場合は、選択肢を用意し○を付けさせる等の工夫をお願いします。

##### ②算数アンケート(1回目:5月 2回目:12月 実施予定)

###### 〈質問項目〉

Q1.算数で、「わかった・できた」と感じる時間はどんなときですか？(いくつでも)

Q2.算数で、苦手に感じる時間を教えてください。(いくつでも)

自分の表現力についての質問

Q3.自分の考えを書くことができますか？

Q4.自分の考えを図や式、言葉を使って相手に伝えることができますか？

Q5.相手の反応や質問に合わせて、説明の仕方を工夫することができますか？

自分の聞く力についての質問

Q6.友達の考えを聞いて、反応を返したり、質問をしたりすることができますか？

Q7.友達の考えを理解するために、質問の仕方を工夫することができますか？

〈例「なぜ、この考えになったの?」「この考えは、こういうこと?」など

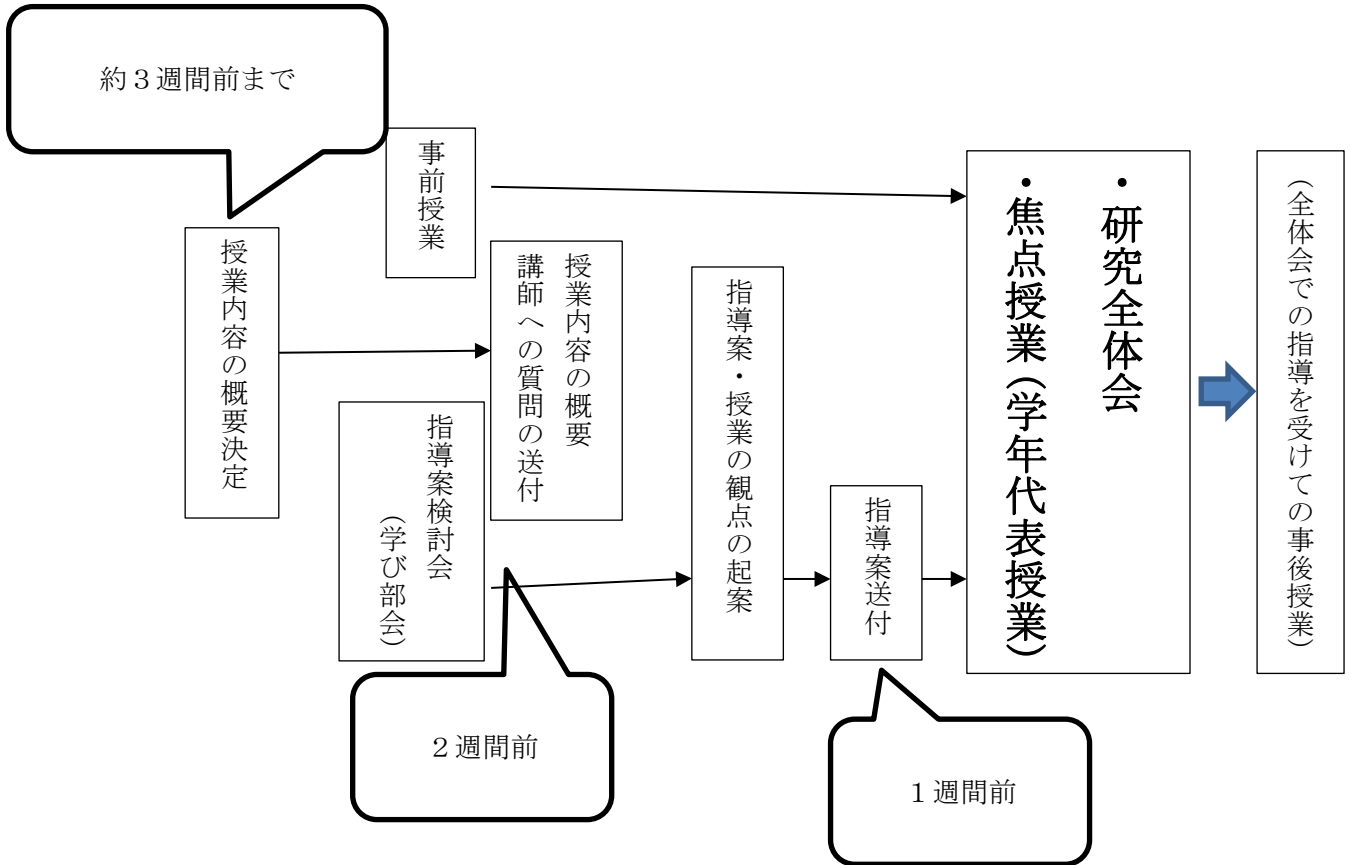
Q1.2→「自分で問題を解く」「友達の考えを聞く」「友達に考えを伝える」「振り返りの時間」「当てはまらない」

Q3~Q7→「できる」「どちらかというところできる」「どちらかというところできない」「できない」の4段階評価。

③ 各学年, 授業実践研究を行います。※基本的に, 1人1授業実施する。

学年から1名, 代表として講師の先生に授業を見ていただく。(経験者研修と兼ねることも可)  
 1回目…6月末~7月(7月6日) 2回目…10月中下旬 3回目…11月中下旬  
 3,6年 4,5年 1,2年

研究授業までのおおまかな日程



- ※事後授業を実施するかどうかは, 各学年にお任せします。
- ※事前授業, 事後授業を実施する日程は, 決まり次第, 伊藤へ報告をお願いします。  
前日までに日報で全体にお知らせします。
- ※事前授業, 事後授業の参観は任意によるものとします。
- ※指導案検討等, 研究を行う単位は, 学年・学団どちらでもよいとします。
- ※支援級は以下の学年に分かれて研究に参加します。(指導案検討等)  
ひまわり→5年生 ぐすのき1組→2年生 ぐすのき2組→3年生

④ 柏市学力・学習状況調査 (算数科の記述式問題の無解答率を調査します。)

(6)年間計画

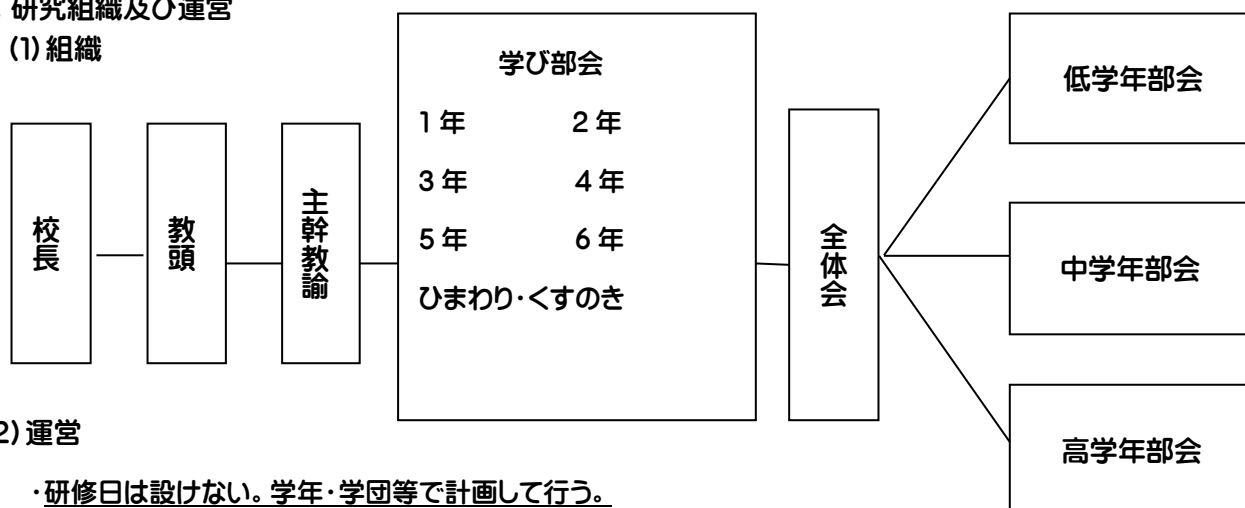
月	算数科	その他	形態	助言者
4月	・年間計画作成	・エピペン, AED講習会 ・年間指導計画見直し	学び部会 学年・学団	校長, 教頭,
5月	・研究全体会 ・算数アンケート		学び部会 学年・学団 全体会	校長, 教頭, 主幹教諭
6月	・指導案作成, 検討		学び部会 学団・学年 全体会	校長, 教頭, 主幹教諭, 講師
7月	・授業実践研究, 全体会 ・算数備品点検		学び部会 学団・学年	校長, 教頭, 主幹教諭
8月		・三校合同研修 (不祥事研修)		校長, 教頭
9月	・指導案作成, 検討 ・授業実践研究, 全体会		学び部会 学年・学団 全体会	校長, 教頭, 主幹教諭, 講師
10月	・指導案作成, 検討 ・授業実践研究, 全体会		学び部会 学年・学団 全体会	校長, 教頭, 主幹教諭, 講師
11月	・授業実践研究, 全体会		学年・学団 全体会	校長, 教頭, 主幹教諭, 講師
12月	・算数アンケート		学年・学団	校長, 教頭, 主幹教諭
1月	・研究の成果と課題		学び部会 学年・学団	校長, 教頭, 主幹教諭
2月	・研究全体会		学び部会 全体会	校長, 教頭, 主幹教諭, 講師

\* 研修日においては, 学年部会や各部会を必要に応じて設定する。

\* 公開研究会には, できるだけ積極的に参加する。\* 希望があれば, 実技研修も実施します。

3. 研究組織及び運営

(1) 組織



(2) 運営

- ・研修日は設けない。学年・学団等で計画して行う。
- ・全体会は必要に応じて開催し, 研修計画, 研修にかかわる内容などの決定及び確認の場とする。
- ・学び部会は必要に応じて随時開催し, 各学年の研修の責任者が参加する。校長, 教頭, 教務主任は必要に応じて参加する。
- ・学び部会は, 学年及び学団の研究の推進, 連絡, 運営に努め, 使用教材等の保管を確実に行う。